

未来都市うつのみやの 実現に向けて

新年、明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

今年も、私が公約として掲げた「未来都市うつのみや」を実現するため、市民の皆さまと一緒にまちづくりを推進してまいります。

住みよさ度

安心度・利便度・快適度・
富裕度・住居水準充実度

5年連続 **1** 位
全国第 **1** 位

▽出典 東洋経済新報社「都市データパック2017年版」
人口50万人以上の28都市中

財政健全度

全国第 **3** 位

▽出典 東洋経済新報社「都市データパック2017年版」
人口50万人以上の28都市中

うつのみやの 実力

共働き子育てしやすい街2017

全国第 **1** 位

▽出典 「自治体の子育て支援に関する調査」(日経DUAL×日本経済新聞社)を基に、人口50万人以上の都市を抽出

第1位	宇都宮市
第1位	杉並区
第3位	福岡市

日経DUAL

平成29年(2017年)を振り返って

明るい話題も多かった1年

宇都宮をホームタウンとするリンク栃木ブレックスが、Bリーグ初代王者に輝き、優勝パレードには市内外から3万人のファンが駆けつけお祝いしました。また、スポーツツクリイミングのボルダリングでは、本市出身の檜崎智亜選手が、日本人で初めて世界選手権で優勝するという快挙を成し遂げました。

さらに、自転車のジャパンカップサイクルロードレースでは宇都宮ブリッ



▲ブレックス優勝パレード

ツエンの雨澤毅明選手がチーム創設初となる3位に入賞し、栃木SCが待望のJ2昇格を果たしました。

市政が大きく前進した1年

民間調査では、本市は住みよさランキングで5年連続全国1位と高く評価されました(人口50万人以上の都市)。

こうした評価は、本市が、子育て支援や次世代を築く人材の育成、産業力の強化、魅力ある拠点の創造、総合的な交通体系の確立などを重点課題として、次のようにさまざまな取り組みを進めてきた成果であると考えています。

現在、待機児童の解消が全国的な課題とされている中、本市では昨年4月に待機児童ゼロを実現し、さらに本年4月もゼロに向け、施設整備への助成や保育士の確保・育成に努めてきました。また、小学3年生まで35人学級を拡大するとともに、タブレット型PCを活



▲オープンスクエアオープン

用した授業や、学力向上や学校図書館司書などの非常勤嘱託員を本市独自に約460人配置するなど教育環境を整備していることなどにより、全国学力テストは全ての教科で国、県の平均を上回ることができました。

さらに、産業分野では内陸型工業団地として国内最大規模を誇る清原工業団地の用地が完売するとともに、長年の課題であったJR宇都宮駅東口地区の整備について、事業者募集に関する整備方針の検討を開始しました。

総合的な交通体系の確立に向けては、東西の基幹交

通であるLRTについて工事施行認可を国に提出するとともに、市民の皆さまの理解を促進するため常設型の情報発信拠点オープンスクエアを開設しました。さらに、JR宇都宮駅東側におけるバス路線再編案を作成・公表するなど、総合的な交通ネットワークの構築がまた一歩進みました。

大きな転換期を迎える
これからのまちづくり

全国的に少子・超高齢社会、人口減少時代を迎えており、本市においても、2018年の約52万人をピークに減少に転じ、2050年には約45万人になることが見込まれています。人口の減少が避けられない中、高齢者が増加することにより、医療・介護など社会保障関係経費が増加するとともに、労働者や消費者が減少することによる地域経済の縮小など、地域の活力の低下が懸念されています。私たちは、これまで誰も経験したことのない時代を迎えようとしていることを認識する必要があります。

ます。その上で、次世代にしっかりとバトンをつなぐために、こうした時代に対応できる社会システムづくりを責任をもって進めていかなければならないと決意を新たにしましたところで、このような本市の現状や時代潮流の変化を展望し、これからのまちづくりの指針となる第6次総合計画の素案を取りまとめたところです。

この計画では、人口減少や人口構造が変化する潮流を踏まえ、目指すべき方向として、安心して出産・子育てができる環境と次世代の人づくりが充実した「子育て・教育の未来都市」や、魅力ある都市空間の創造と市民や来訪者が快適に移動できる交通ネットワークが構築された「交通の未来都市」など、6つの未来都市の実現を掲げています。

今後、市民の皆さまのご意見を踏まえながら、計画の策定を進め、市民の皆さま一人ひとりが輝く、活力あふれる「未来都市うつのみや」の実現に取り組んでまいります。

第6次総合計画(素案)に示す まちづくりの基本方向

2 医療・福祉が充実し、誰もが健やかで生きがいを持って自立した生活を送ることができる

「健康・福祉の未来都市」

(健康・福祉・医療 分野)



今後の主な取り組み

■ **健康づくりの推進** 健康づくり活動にポイントを付与する健康ポイント事業や従業員の健康づくりに取り組む事業所の増加。

■ **地域包括ケアシステムの構築** 医療と介護の連携、認知症対策の推進、介護予防・生活支援の充実。 など

3 危機への備えが万全で、地域のつながりや支え合いが大切にされ、日常生活において誰もが不安なく、安全・安心を実感して暮らせる

「安全・安心の未来都市」

(安心・協働・共生 分野)



今後の主な取り組み

■ **洪水対策などあらゆる災害対応の強化** ハード面からの治水・雨水対策やハザードマップの活用によるソフト的な対策、また、ICT技術の活用。

■ **ICTを活用した市民の市政参画と市民協働の促進** SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などを活用した戦略的な情報発信や市民ニーズの確かな把握。 など

本市の現状や時代潮流の変化と展望を踏まえ、「まちづくりの重点課題」や「まちづくりの基本方向」など、計画の素案を取りまとめました。今後、市民の皆さまからいただいたご意見を踏まえ、本市のまちづくりの指針である「総合計画」の策定を進めていきます。

まちづくりの重点課題

- 1 次代を築く人づくり。
- 2 健康づくりと福祉の充実。
- 3 安全・安心な地域づくり。
- 4 都市の個性づくりのさらなる強化と魅力の発信。
- 5 地域経済を支える産業の活性化と環境調和型社会の構築。
- 6 骨格の強い都市の形成。

1 安心して出産・子育てができる環境が整い、次世代の「人づくり」が充実し、誰もが生涯にわたって主体的に学ぶことができる

「子育て・教育の未来都市」

(子育て・教育・学習 分野)



今後の主な取り組み

■ **子育てと仕事の両立支援の充実** 保育所、認定こども園の整備促進や保育士の育成・確保。

■ **子どもの貧困対策の推進** 教育の支援や経済的支援。

■ **グローバル社会・情報社会の急速な進展に対応できる教育の推進** 英語コミュニケーション能力の育成や本市を愛し誇りに思う態度の育成、プログラミング教育の推進。 など

6 魅力ある都市空間の創造と骨格の強い交通ネットワークが構築された

「交通の未来都市」

(都市空間・交通 分野)



今後の主な取り組み

- 都市拠点への高次都市機能の集積促進 広域的な交流・賑わい機能の創出を図るJR宇都宮駅東口整備の推進や中心市街地における再開発などの推進。
- 地域拠点などへの居住や生活利便施設の集積促進 病院や買い物などのさまざまなサービスを受けやすくするための立地誘導策の推進。
- 公共交通ネットワークの構築 LRTの整備、バス路線の再編。
- 公共交通で外出しやすい環境づくり 交通ICカードの導入、運賃体系の見直し(乗り継ぎ割引、上限運賃設定など)。 など

第6次総合計画(素案)に関して パブリックコメントによる意見を募集中

市では、皆さんの意見を計画に反映するため、12月から素案を公表しており、引き続き意見を募集しています。
 ▽公表・意見募集期間 平成29年12月8日～1月8日。
 ▽公表方法 市ホームページ、政策審議室(市役所5階)、行政情報センター(市役所1階)、各地区市民センター・出張所・生涯学習センター・市民活動センターで閲覧できます。
 ▽意見提出方法 送付・ファクス・Eメール(意見・住所・氏名・電話番号・年齢・性別を明記)で、〒320-8540市役所政策審議室 ☎(632)2115、☎(632)5422、✉u2005@city.utsunomiya.tochigi.jpへ。

6つの未来都市

4 地域資源の魅力創造・発信し、人や情報が行き交い活力が生まれる

「魅力創造・交流の未来都市」

(魅力・交流・文化 分野)



今後の主な取り組み

- 自転車を核とした都市の魅力向上 ジャパンカップサイクルロードレースの観戦環境や安全性の向上、新たなサイクルスポーツの振興や自転車の利用環境の向上。
- 大谷の地域資源のフル活用 大谷石採石場跡地、石造建造物、景観、文化などの地域資源の魅力の発信。
- 文化資源を活用した地域の活性化 歴史、文化資源、芸術、さらには郷土の伝統芸能などに触れる機会の充実や歴史・文化のストーリーづくりとその情報発信。 など

5 地域の確固たる経済力の維持・発展と環境に優しい都市の実現が両立する

「産業・環境の未来都市」

(産業・環境 分野)



今後の主な取り組み

- 女性の雇用創出・就労の促進 女性の就労の受け皿となる企業の増加や女性の市内企業への就職を促進する仕組みの構築。
- 農の産地力強化と農産物ブランド化の推進 農業を支える担い手の確保・育成、企業の参入促進、国内外の消費者から選ばれる農産物のブランド化の促進。
- LRT沿線における低炭素化の促進 LRTのトランジットセンターへの省エネ・再エネ設備の導入、周辺街区も含めたエネルギーの利活用。 など